



# 日本共産党名古屋市議員 柴田民雄 昭和区市政ニュース

No. 21  
[2015/10/11 発行]



発行 日本共産党名古屋市議員団 〒460-8508 名古屋市中区三の丸 3-1-1 名古屋役所東庁舎 3F Tel 052-972-2071  
名古屋市議員柴田民雄事務所 〒466-0849 昭和区南分町 3-3 Tel 052-858-3255 Fax 052-858-3256  
tamio.icweb.net / shibata@tamio.icweb.net / @shibata pin / www.facebook.com/tamio.shibata

メールマガジンに登録を  
mtouroku@tamio.jcpweb.net  
に空メールを送信するだけ!



## 9月議会で補正予算など意思決定

### 名古屋城天守閣木造復元にか じを切る補正予算に反対討論

9月30日(水)午後1:00から行われた名古屋市議会本会議で、補正予算などの議案に対する意思決定が行われました。



日本共産党の西山あさみ議員が、名古屋城天守閣の木造復元を盛り込んだ補正予算にたいして反対討論を行いました。全文を紹介します。

反対する理由は、名古屋城整備検討調査と銘打って、名古屋城天守閣の木造復元に本格的に踏み出す予算が計上されているからです。問題点は4つ。

第1は市民の意見を聞かず、市民合意のない中で木造復元へとかじを切ったことです。当局は7月1日の経済水道委員会で、「木造復元を目指す」という方針を撤回し、複数の「選択肢を示しながら、市民の意見を聞き、調査結果などを丁寧に説明する」という方針を示しました。ところが、市民の意見を聞くことなく、木造復元に向けた技術提案交渉方式によ

る契約手続きを開始するというのは、市民そこのけと言わざるを得ません。昨年2月に実施されたネットモニターアンケートでは「耐震改修」が7割を超えたように、木造復元についての市民合意はありません。市民アンケートを行うというのなら、補正予算を提出する前に実施すべきです。

第2は2020年7月のオリンピックまでに竣工という無謀な方針となっていることです。当局は委員会で、事業者募集の条件として2020年7月までの竣工を明示しました。市

の調査では、天守閣本体だけでも、解体に3年、復元工事に6年、合わせて9年。しかも、御殿の工事と重複しないよう「本丸御殿完成後に木造復元に着工するのが望ましい」という結果が出ています。こうした調査結果を棚上げにする工期の設定は資材や人件費の高騰をまねき、事業費が跳ね上がることはあきらかです。

第3は概算事業費も明らかにせず、財源のめどがたたぬまま

での強行は市民の暮らしに犠牲を強いる恐れがあることです。木造復元といっても木材や仕様により270億円~400億円と大きな幅があります。概算事業費も示さず事業者まかせにするのはあまりにも無責任です。国からの補助金確保のメドも立っておらず、市の財政見通しも厳しいもとの、巨額の市費を投入すれば市民の暮らしに大きな犠牲を強いることになりかねません。

第4は、「特別史跡名古屋城跡全体整備計画」では、天守閣については耐震改修を進める方針であるにも関わらず、木造復元に方針を転換することは、この「全体整備計画」との整合性がとれないことです。

以上の点から、天守閣の木造復元には大きな問題があり、いま急ぐべきではありません。

この3分の討論に対して、自民党の議席から拍手がありました。河村市長は「共産主義だ」と無意味なヤジを飛ばしましたが、自民党の議席から「共産主義じゃないわ、きわめてまともなことを言っとるんだわ」と、市長をたしなめるヤジも飛びました。採決では、残念ながら共産党以外の全会派が賛成し、補正予算は成立しましたが、自民党内にも、市長の強引なやり方に対し忸怩たる思いの議員もいることを感じさせるやり取りでした。

この様子は翌日の中日新聞と毎日新聞にも詳しく報じられました。

#### 市議会

### 名古屋城天守閣木造復元構想 調査費可決も残る火種

市長VS市議 共産に自民加勢も

河村たかし名古屋市長が推進する名古屋城天守閣の木造復元構想を巡り、9月30日の市議会本会議で、構想を批判した共産市議に河村市長がやじで応酬。調査費を含む一般会計補正予算案の採決に先立ち、西山あさみ市

議(共産)が反対討論で「財政が厳しい中、巨額の税金を投入すれば市民に大きな犠牲を強い」「市民合意がないまま木造復元へかじを切り、2020年7月までに完成させるのは無謀」と批判した。これに対し、市長は「河村市長が共産市議とやり取りしている」と述べた。調査費を巡り、自民、

#### 木造復元への調査費など 補正予算が可決、成立



名古屋市長の九月定例会は三十日、本会議を再開。名古屋城天守閣木造復元に向けた調査費や、城周辺に二〇一八年度の開業を指して建設予定の集客施設「金シャチ横丁」の運営事業者の公募費用など計二千八百万円の一般会計補正予算案などを可決した。補正予算案には、共産を除く全会派が賛成した。

討論した西山あさみ氏(共産)は、四つの問題点を指摘。「市民の合意を得ていない」「二〇一七年七月までの完成は無謀」「財源のめどが立っておらず、市民の暮らしに犠牲を強いかねない」「名古屋城跡の全体整備計画との整合性がない」と列挙し、「急ぐべき時で指して建設予定の集客施設「金シャチ横丁」の運営事業者の公募費用など計二千八百万円の手が起った。西山氏の演説後、河村たかし市長が自席から「共産主義だ」とやじを飛ばすと、議案に賛成の自民議員から「極めてまともなことを言っている」とたし



